

| | |
|-----------------|--|
| 1 学校教育目標 | 2 本年度の重点目標 |
| いきいき久間っ子の育成 | ≪素直で思いやりの心を持ち、自分で考え、進んで活動する子どもを育てるために、すべての子どもが「できる」「わかる」「参加する」教育活動に取り組む。≫ ①<学力の向上>…工夫して学ぶ子プロジェクト ○伝え合い学び合う活動を通して、書く力・話す力などの表現力及び読む力を伸ばす ○ICT利活用による授業実践を積み上げる ②<健康な体をつくる>…強くて逞しい子プロジェクト ○自分なりに楽しめる日常的な遊びや運動の習慣を身につけ、体力の向上を図る ○目標の時刻までにふとんに入る習慣を身につける ③<道徳教育の推進><特別支援教育の推進>…心やさしい子プロジェクト ○心に響く道徳の授業づくりを通して道徳心の向上を図る ○支援体制を確立する ○学習環境・授業のユニバーサルデザイン化に取り組む ④<地域連携の促進> ○地域の人材・教材を生かした実践の充実を図る |

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

| 3 目標・評価 | | | | |
|--|------------|------------------------|---|--|
| ① 「工夫して学ぶ子」育成に向け、自分で考え創り出す活動の実践 | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ●学力向上 | 読書活動の充実 | ・年間「100冊読書」達成する児童を80%以上にする。 | ・朝の時間に読書タイムを行い、静かな授業の始まりを迎える。 ・週末読書や読書回覧板(全学年)に取り組み、家庭での読書の習慣化を図る。 ・図書館祭りやイベント・読み聞かせを実施する。 |
| | | 家庭学習習慣の確立 | ・家庭学習に取り組む方法が分かり、自ら家庭学習に取り組めると自信を持って回答する児童を90%以上にする。 | ・家庭学習チェックシートに取り組むことで、家庭学習指導の徹底、学習準備の徹底や学習習慣の確立を図る。 ・家庭学習の手引きを配布し、学年に応じた学習時間や内容の充実を図る。 ・家庭学習(自学)ノートコンテストを実施し、更なる内容の充実を図る。 |
| | | 獲得した知識・技能を活用し、表現する力の育成 | ・自分の考えをノートにまとめたり、発表したりすることができる児童を80%以上にする。 | ・授業の中に自分の考えをまとめる時間や伝え合う時間を確保し、表現することの大切さを実感させながら表現力の育成を図る。 ・久間メソッドを校内研修のなかで確認し共通理解を図る。 |
| | ○子どもの活動づくり | 学級活動の充実 | ・係活動や当番(日直・掃除・給食)活動で「責任を持って自分の役割を果たしている」と回答する児童を80%以上にする。 | ・学級において、仕事を担う意義を理解させ、計画・実践・ふり返りの時間を保障し、活動の支援や助言を行う。 ・係活動で、当番的活動と自主的活動を意識させて取り組ませる。 |
| ② 「強くて逞しい子」育成に向け、進んで運動に親しむ活動の実践 | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ●健康・体づくり | 望ましい生活習慣の形成 | ・毎日、朝食をとって登校する児童95%を目指す。 ・目標の就寝時刻に布団に入る児童を90%以上にする。 | ・毎月、保健だより・食育だよりを発行し病気の予防法や食事の大切さを保護者に伝える。 ・朝食をバランスよく食べることや睡眠の大切さを保護者や児童に伝える。 ・年に3回児童の就寝時刻と朝食喫食について調べ、生活習慣を見直す機会を設ける。 ・<就寝時間(布団に入る)の目安:低(9:00)中(9:30)高(10:00)> |
| | | 運動習慣の定着化 | ・昼休みに外に出てよく遊ぶ児童を90%以上にする。 | ・いろいろな運動を紹介し、児童に奨励する。(縦割共遊、がんばるマラソン、久間リンピックチャレンジランド・スポーツチャレンジ) ・外遊びを奨励する。(前期は学級で、後期は全校的取り組みを行うようにさせる。) ・天気の良い日は外で遊ぶように放送で呼びかける。 |
| | ○子どもの活動づくり | 縦割り活動・クラブ活動の充実 | ・縦割り活動で「他の学年の人と楽しく活動できた」と回答する児童を90%以上にする。 ・クラブ活動で「他の学年の人と協力して活動できた」と回答する児童を90%以上にする。 | ・異学年で共通の興味・関心を追求させながら、活動計画や準備を事前に知らせたり、活動中の進行等をしたたりする自主的活動の場を保障する。 ・異学年で交流する楽しさを味わえる、場と時間を保障する。 |

③ 「心やさしい子」育成に向け、人の気持ちを考える活動の実践

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|------------|------------------------------|---|--|
| 教育活動 | ●心の教育 | 道徳教育の推進 | ・道徳教育を推進し、心やさしい子の育成と、職員の研修の充実を図る。 ・ 年1回以上 、道徳の授業を公開する。(6月の授業参観「ふれあい道徳」) | ・「心やさしい子」プロジェクト部会からふれあい道徳を提案する。 ・ふれあい道徳の実施にあたっては、地域人材の積極的活用や「学校便り」、「学級通信」等を通じた情報発信に努め、広く道徳教育への理解を図る。 |
| | | 生徒指導の充実 | ・人の気持ちを考えることができる回答できる児童、 80%以上 をめざす。 ・自分からあいさつができる児童が、児童・保護者アンケートで 80%以上 をめざす。 ・無言掃除ができる児童を 80%以上 とする。 ・掃除前の立腰タイムを 毎日1分間実施 する。 | ・あいさつ、そうじ、思いやりの3点について月ごとに具体的なめあてを設定し、プロジェクト部会を中心に 振り返り をし、 児童の状況を評価しながら 年間を通して学年に応じた指導を行う。 ・静かな落ち着いた環境のなかで、整然と掃除ができるように指導する。 |
| | | 特別支援教育及び教育相談体制の充実 | ・特別支援教育を校内研に位置づけ、学習環境や授業のユニバーサル化について理解し、取り組んでいる職員を 90%以上 にする。 ・支援を必要とする児童の実態、支援の在り方について共通理解を図り、実践している職員を 90%以上 にする。 | ・特別支援教育の視点を踏まえに授業研究会を 主学級 で実施する。 ・特別支援教育に関する研修会を実施し、特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を確立する。 ・ 年2回 外部講師を活用し、特別支援教育についての取り組みの充実を図る。 ・毎月の「子ども支援会議」で支援の必要な児童の実態についてスクールカウンセラーを活用しながら情報交換し、支援方法の検討をする。 ・ 8月のユメセン事業・地域人材の活用を年に2回以上行う。 |
| | ●志を高める教育 | 夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを育む教育の推進 | ・自己肯定感の充実を感じる児童を 80%以上 とする。 ・道徳の時間に、 年1回以上 、 学級通信のなかで3回以上 自分の「夢や目標」に係る学習や紹介をを実施する。 ・ 年に2回 、夢を実現できた人物を招き講話等を実施する。 | ・久間っこ集会の中で自分の考えを堂々と発表させることにより自己肯定感の充実を育む。 ・自分の「夢や目標」について、道徳のカリキュラムの中で 年に1回以上実施 し、児童に自ら考える機会を持たせる。 ・ 学級通信のなかで3回以上 、夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを紹介する。 ・学校便り・全校朝会の訓話のなかでも数回、夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを育む読み物の掲載や講話等を実施する。 ・ユメセン・演劇会の実施。 |
| | ●いじめ問題への対応 | いじめのない学校づくり | ・人権教室、児童アンケート等 年2回 を行うことにより、いじめを許さない意識付けを図り、早期発見・早期対応をおこない、 いじめに係る覚知・認知を昨年度よりも少なく するようにする。 ・ 人権集会(6月、11月)を実施 する。 ・ 保護者啓発のため、ITサポート監修の研修会を実施 する。 ・満足型傾向の学級づくり 100%を 目指す。 | ・ 人権教室を年2回(6月・11月)、児童のアンケートを年2回実施 する。(7・12月) ・児童のアンケートを基に児童との面談を実施し、いじめの早期発見、よりよい解決に努める。 ・「仲間・連帯」「やさしさ・思いやり」をテーマとした人権集会(6月、11月)を実施し、児童の心を耕していじめを許さない心を育む。 ・ 年1回、ひまわり講座に保護者の参加を呼びかける。 ・ QUアンケートを年2回実施する。その効果的な活用を図るために研修会を実施し、児童の実態把握を行う ことで支持的風土のある学級経営を行う。 |

④ 保護者・地域との連携を深めるコミュニティ活用の推進

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|--------------------|-------------------------------|--|--|
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | 校務等の効率化の促進 | ・保護者や地域コミュニティとの連携により、業務時間外の児童の指導について依頼をして、業務の改善を進める。 児童の登下校についての業務を0にする。 ・ 業務改善・働き方改革については、職員にアンケート1回以上行う。 ・職員の定時退勤日の退勤時刻励行についての意識を高め、実行できているを 80%以上 にする。 | ・地域コミュニティの見守りと連携して、 ・業務改善・働き方改革については、 職員にアンケート1回以上 行い、それをもとにどのような業務の効率化が実現可能なのを見える化する。 ・見える化した業務について、 2項目以上 の実行を行う。 ・連絡用ホワイトボードの設置や行事黒板のIT化で業務改善を 夏休みまでに 実行する。 |
| | ○保護者・地域との連携 | 保護者・地域との連携とコミュニティによる学習支援体制づくり | ・保護者の授業参観率を 80%以上 にする。 ・ 久間コミ活動の年間計画に沿って コミュニティによる学習支援体制を活用した授業や活動を実施する。 | ・学校だよりやHP等で早めに授業参観日や懇談日を知らせ、保護者が計画的に参加しやすいようにする。 ・各教科や総合的な学習の時間における年間計画を作成し、学校運営協議会を活用してコミュニティと連携強化を図りながら、地域の教育力を生かした取組みを推進する。 |

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

| | | | | |
|------|-------------------|------------------|--|---|
| 教育活動 | ○小中連携教育 | 小中連携教育の推進 | ・毎時間「かつお」を実践する。 ・ろくさんプランの計画に基づいてノーTVノーゲームの取り組みを 85%とする。 ・必要に応じて見学や情報交換を 年に2回以上実施 する。 | ・ノーTVノーゲームデーの家庭連絡を実施して、取り組みの意義を伝え、実施を呼びかける。 ・全職員で共通理解し、 授業だけでなく集会活動などでも徹底 していく。 |
| | ○学習環境の改善充実 | 学習環境のユニバーサルデザイン化 | ・場や時間の構造化、情報(刺激)の調整等を すべての 教室で取り組み、すべての子どもが安心して学べる学習環境を整える。 | ・年度当初に、具体的な取組を確認し、全職員で取り組む。 (前面掲示: 学級目標と生活目標、電子黒板のブラックアウト、棚のカーテン化) ・ 給食当番表様式の統一化を100% 行う。 ・スケジュールボード、タイマーを活用し、学習や生活の見通しを持たせる。 |
| | ●小学校低学年の学習環境の改善充実 | 学習習慣や生活習慣の確立 | ・話を最後まで静かに聞くことができるようになる児童を 85%以上 にする。 ・学用品の忘れ物がないと考える児童を 85%以上 にする。 | ・日々の授業で話を聞く態度について、随時指導をする。 ・自分のことが相手に伝えられるように話し方の指導をする。 ・「べんきょうのやくそく」を配布し、家庭学習の習慣化を図る。 ・「家庭学習チェックシート」を実施し、家庭と連携を図りながら学習習慣や生活習慣を確立させる。 ・学用品の忘れ物については、個別に指導し、家庭との連携を図る。 |

●は共通評価項目、○は独自評価項目